

〔18年11月号月報の概要〕

1 市場動向の概要随時

(1) 野菜

9・10月の実績

- ・春先の低温、夏季の高温・干ばつなど天候不順の影響で全体の入荷量は前年を下回り、価格は全般に高値基調。9月は食用菊を除きすべて前年を上回る価格で取引、10月に入り、高値反動等もあり、きゅうり、いんげん、えだまめ等で下落。

11月の見通し

- ・秋野菜は全般に作柄は良好で安定した入荷となる見込み。
- ・本県主力品目のねぎは、東北産が全般に生育が遅れ、細めの仕上がりで、入荷量は前年をやや下回り、価格は低迷した前年を上回る見込み。

(2) 果実

9・10月の実績

- ・6、7月と天候不順の影響で全体の入荷量は前年を下回り、価格は全般に高値基調。9月は特に、りんご、日本なし、すももが入荷減で高騰した。10月に入り入荷量も安定してきたが、依然日本なしは高値で推移した。

11月の見通し

- ・果実全般に裏年であるため、入荷量はやや少な目、特にミカン、柿は前年を大幅に下回る見込み。本県主力のラ・フランスは豊作であった前年はやや下回る。

(3) 花き

(10月入荷状況)

- ・高冷地と暖地の切り替わり時期で入荷が不安定となり、また、ブライダル需要もあり比較的堅調な取引となった。

(11月見込み)

- ・大きな物日もなく、業務需要中心の取引となる見込み。

2 輸入青果物の品目別累計速報

- ・18年8月の累積入荷実績は、生鮮野菜では数量ベースで前年比86%、金額ベースで104%。生鮮果実では数量ベースで前年比92%、金額ベースで93%となっている。

3 消費地からのホットニュース

- ・伝統野菜を売り込むために